

ニッポンハム食の未来財団 平成 28 年度 団体活動支援助成 完了報告書

企画活動名	エッセイ集「食べるということ」の制作、普及、出版
フリガナ	サカモト タツオ
申請者（代表者）氏名	坂本 龍雄
団体名（正式名称）	団体名 : 認定特定非営利活動法人アレルギー支援ネットワーク 役職・肩書など: 理事長、中京大学スポーツ科学部教授

### 1. 活動結果要約

地元の有力新聞である中日新聞の連載として掲載された、「アレルギーの窓から」（伊藤浩明著 2014 年度）、「味な提言」（榎村春江著 2016 年度）と、あいち小児保健医療総合センターで経口免疫療法を受けた子どもたちとその保護者に寄稿していただき、エッセイ集として発刊し、700 冊を無償配布した。食べ物を体が拒否する食物アレルギー、それを克服するための治療を通して見えてきた「食べること」の意味を綴ったエッセイ集を無償配布することにより、アレルギーと向き合う方に勇気を、子どもを見守る方々に理解と共感を与えることができた。

### 2. 活動目的

当法人は、あいち小児保健医療総合センターアレルギー科を中心として、地域のアレルギー専門診療の現場に密着して患者支援を行い、管理栄養士をはじめとする指導スタッフの育成を行ってきた。同センターの診療では、食物アレルギーに対する経口免疫療法を 2010 年から実施しており、これまでに治療を受けた子どもは 150 人に及ぶ。食物アレルギーに対する経口免疫療法は、決して平坦な道のりではないが、医師と保護者、そして子ども自身との信頼関係の下、根気良く、果敢に挑戦をし続ければ、成果は訪れる。本書に掲載された、自分の食物アレルギーに正面から立ち向かった子どもたちと家族の体験が、現在食物アレルギーに直面し、悩み迷っている多くの人に勇気を与

え、患者家族を支える専門職の方々に理解と共感を与えることができると考え、本書を普及することを目的とした。

### 3. 活動方法

- 11/11 編集会議・出版社との打ち合わせ  
原稿依頼(経口免疫療法を受けたこどもと親)
- 11/29 デザイン・イラスト発注
- 12/5 編集会議 その後、順次原稿を出稿
- 12/28 初校
- 1/24 再校
- 2/8 校了
- 3/1 出版
- 3/4 無償配布開始・・・食物アレルギーセミナー・あいち 157冊
- 3/10 ニッポンハム食の未来財団 80冊
- 3/11 東海小児アレルギー談話会 40冊
- 3/19 アレルギーっ子のフェア 205冊

以上、医療関係者・専門職・患者家族 などに配布。

その他、編著者・イラストレーター・デザイナー・スタッフなど関係者への配布を含め、700冊を無償配布した。短期間の中に、患者家族からの原稿執筆の協力やイラストレーター・デザイナー、出版社の協力が得られ、順調に出版をすることができた。また、当法人の活動実績より、医療関係者や栄養士・保育士などの専門職や患者家族など、幅広く無償配布をし啓発をすることができた。

### 4. 結果及び波及効果

完成した書籍を患者・家族に届けることで、食物アレルギーに立ち向かう勇気や心の支えを与えることができた。正確な診断に基づいた治療の可能性を伝えることで、標準的な医療を受けるきつ

かけを与えることができた。アレルギー児を取り巻く教育・保育・行政・医療・外食産業などの関係者に普及することで、食物アレルギーに関する一般の理解を深め、前向きな対応を前進させるきっかけになることが期待できた。

無償配布者からの感想や活用についての声を以下に掲載する。

#### 【保育園給食調理員】

読み終えた後には、胸と喉が熱くなり、優しい気持ちと感動だけが残っていました。私も調理の仕事をしていますが、安全で美味しい料理と、楽しく幸せな時間を提供したいと、更に頑張る力をいただきました。

#### 【保健師】

仕事には色んな面で活用出来ます。小さなおこさんを持つ親の不安が減少し、またきちんと治療を正しく行ってもらうために活用できたらと思います。アレルギーの母親の気持ちを推測するのにとっても役立つと思いました。

#### 【管理栄養士】

- \* 園での対応をもっと高めていければと感じましたし、保護者の方の不安や悩みが少しでも軽減できるよう、お声かけの導入や治療の一例としてお話しさせていただき、活用していきたいと思います。
- \* アレルギー患者さん本人、ご家族の方の体験は、一人ひとりの歩んできた道があり、胸にこみ上げるものがありました。アレルギーを不安に感じるばかりでなく、「治療」や「食」に明るく前向きに取り組もう！と思えたり、体験談から何かヒントや気づきがあると感じました。
- \* 読み終わった時には食物アレルギーから人生の生き方までも導いてくれるような心温まる本でもありました。
- \* 私たちが指導の中でわかりやすく伝えるポイントがよくわかります。また、こども達の生の声を書いてあるところがとても心に響きました。自分の姿を見て「管理栄養士になりたい」と言ってもらえたら最高だなと思います。

### 【患者家族】

- \* 自分の免疫療法を自由研究とした取り組んだ少年の章は、本当に感動しました。この少年は、きっとこれからの人生も、どんな困難があっても自分で切り開くことができると思います。うちの子どもも同じように、力強く生きていって欲しいと願うばかりです。
- \* おいしい笑顔に出会うまでは、昔、私も同じような経験をした事を思い出し、沢山のお母さん達の頑張りに共感できました。
- \* 除去から負荷になった時に、美味しくは無理としても、怖くないと感じてもらうのは難しいと思っています。患者会の活動の中で、除去してる子のお母さんには怖くないよ、おいしいよ、とメッセージを子どもに伝えることの必要性もお伝えしつつ、アレルギーに配慮してくれているお母さんの愛情を感じているから大丈夫、と、安心感も感じてもらえるようにしたいと思いました。

### 5. 今後の活動について

助成期間中に 700 冊の無償配布を終了した。自己資金によって発行した本書を、1 冊 1,500 円(税込み)で販売をし、当法人が開催をする研修会、患者会、各種学会などにおいて書籍販売、及び、当法人のホームページから直接注文によるネット販売を行い、広く一般市民に対する啓発活動を行う予定である。

以上